

2019 年度 北海道の労働と福祉を考える会

総会資料



2020年3月20日（金）

目次

1. はじめに（小川遼）	3
2. 2019年度の活動概要（楠高志）	4
3. 人数調査（大野慶）	5
4. 夜回り（楠高志）	7
5. 炊き出し（柿崎さとみ／楠高志／近藤良明）	9
6. 生活保護申請同伴／フォローアップ・よろず支援／電話相談（山内太郎）	14
7. お世話になった関連団体の皆さま／寄付をいただいた皆さま（山内太郎）	19
8. 会計報告（波田地利子）	20
9. 会員名簿（波田地利子）	22
10. 審議事項（山内太郎）	23
11. 私と労福会	26

1. はじめに

2019年度は労福会にとって20周年の節目であったが、活動そのものは特別なことはなく、学習会に時間を割いたということ以外はおおむね例年通りのものになった。というのも、記念イベントは企画されていたもののコロナウィルスの影響によって中止の判断となってしまったのである。

また今年度は事務局不在のまま始まり、そのまま一年を終えることになった。学生会員の不足が要因である。そこで代表の山内が実務の多くの部分を担うことになり、負担の偏りが生じてしまった。反省が必要である。

しかし一方では前向きに受け止められる変化の兆しもあった。アクティブな会員の増加である。その多くは非学生の会員たちで、さまざまな職種についている。そのために他団体との新しい連携の可能性も生まれてきた。学生に関しては依然として少なめではあるものの、それを「問題」としてとらえるかどうかということは、事務局を学生が担うという運営体制に関する不文律を変更するかどうかにかかっており、もはや我々の選択の問題であるともいえるだろう。

2. 活動概要

月	日	会議の議題・その他	夜回り人数					合計
			参加	駅前	大通	狸小路	その他	
2	2	人数概数調査の振り返り	9	9	10	11		30
	9	総会資料の担当分担を決定	9	9	12	5		26
	16	総会資料の担当分担続き、炊出しの参加者確認	9	8	15	5		28
	23	【行事】炊き出し(ワクワクホリデーホール)、司法書士会と共催						
3	2	次年度の活動方針	9	7	9	6		22
	9	総会資料の郵送について	10	8	9	10		27
	16	【行事】定時総会						
	23	(完全休日)						
	30	新規会員の獲得、ロッカーの移動、夜回り参加者へのこまめな連絡	12	9	11	9		29
4	6	新規会員の勧誘、ピラの作成	15	9	5	4		18
	13	→参加者少なく開催できず	17	8	5	12		25
	20	学習会企画について	23	7	8	6	中島公園2	23
	27	【運営会議】炊きだしの日程決定(主催)						
5	4	支援マニュアル(小川)学習会、新入生歓迎会ピラ	13	8	9	7		24
	11	炊き出しの行事内容、20周年企画、Sammiさんの支援報告	15	7	12	6		25
	18	休み	21	2	1	6		9
	25	【運営会議】学習会兼歓迎会報告、炊き出しのタイムスケジュール、今後の学習会						
6	1	7/20炊きだしメニュー、6/22学習会決定	17	4	9	9	大通地上1	23
	8	柿崎合唱団、学習会内容	20	2	8	7		17
	15	休み	8	4	15	4	豊平川1	24
	22	【行事】「支援活動の手引き」改訂学習会、炊き出しの進捗状況						
	29	炊き出しの役割分担	12	5	15	6		26
7	6	炊き出しの変更点、同意書・運搬係・荷物引換券	10	4	11	8		23
	13	炊き出しの最終確認、食材の購入	13	7	11	6		24
	20	【行事】炊き出し(中央区民ホール) 労福主催						
	27	【運営会議】炊き出し振り返り、夜回りの曜日、時間帯、コースについて協議						
8	3	普段夜回りのコース確認、時間帯の妥当性	11	5	4	11		20
	10	平日夜回りの第1回決定	12	5	8	4		17
	17		7	7	8	6		21
	22	平日夜回りの第1回	6	3	8	5		16
	24	【運営会議】平日夜回りの振り返り、支援活動報告の要式、JOINの事例検討						
	31	次回学習会、次回平日夜回りの日程	11	4	13	10		27
9	7	労福会川柳	9	4	9	11		24
	14	20周年企画の内容	9	4	9	7		20
	21	労福携帯へのNさんの相談	12	5	6	11		22
	25	第2回平日夜回り	6		5	4		9
	28	【行事】学習会:無料低額診療制度の院外処方箋、生保利用者の葬儀について						
10	5	炊きだし川柳、20周年記念公園、平日夜回り・学習会報告	13	4	6	7		17
	12	炊きだし参加者確定、インフォメールへの対応	12	5	11	9		25
	19	【行事】秋の炊き出し(中央区民ホール)、司法書士会と共催						
	23	第3回平日夜回り	7	3	5			8
	26	【運営会議】炊きだし、平日夜回りの振り返り、20周年行事						
11	2	20周年行事を公開に、年末行事の検討	12	5	5	9		19
	9	炊き出し日程決定、20周年記念の講師について	12	6	9	10		25
	16	平日夜回りのコース、珠蔵が子供食堂開設にあたってのピラ	17	5	8	11		24
	23	【運営会議】炊き出し準備状況、20周年タイムスケ【学習会】アジュール事例検討					北、白石	
	27	第4回平日夜回り 東白石方面2名、北新川発寒方面3名、参加5名	5				3, 2	5
	30	平日夜回りの今後、炊き出しタイムスケジュール、20周年実行委員会の報告	16	2	6	7		15
12	7	年末28日夜回りの時間、12月炊き出し昼と夜の班	14	6	7	7		20
	14	エルプラザ休みのため	10	4	5	8		17
	21	【行事】冬の炊き出し(中央区民ホール)、民医連と共催						
	28	★年最後の夜回り	17	5	3	5		13
1	4	人数調査の実施内容、炊出しでの健康コーナー	13	4	9	6		19
	11	車上生活者カウントへの札幌市回答、委託金、20周年のチラシ完成	16	5	7	6		18
	18	人数調査札幌市との契約、2/8炊き出し参加者	20	9	12	8		29
	25	【運営会議】人数概数調査のコース確認、2/8炊き出しでのアンケート						
	26	【行事】野宿者人数調査(概数調査)						
								その他
参加人数	242	前半期	509	217	338	289	9	853
	267	後半期	参加	駅前	大通	狸小路	853	総合計
			平均	12.4	5.564	8.45	7.41	1.80
		会えた人数						
	423	前半期						
	430	後半期						

3. 人数調査

本章では、2019 年度実施の路上生活者人数調査（以下、本調査）について、(1) 調査概要、(2) 調査結果、(3) その他（「車中生活者」という存在、参加者の感想）という点に絞って説明する。

(1) 調査概要

本調査は、厚生労働省「ホームレスの実態に関する全国調査（概数調査）」に基づき、札幌市から委託を受けて実施されたものである。調査概要は以下のとおりである。

<調査目的>

ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法およびホームレスの自立の支援等に関する基本方針に基づき実施される施策の効果を継続的に把握することである¹。

<調査対象>

ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法第 2 条に規定する「都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所として日常生活を営んでいる者」（以下、ホームレス）である²。ただし念のため付言しておくが、上記の定義には後述する「車中生活者」やネットカフェ等で起居している者は含まれていない。そのため本調査が対象とするホームレスは狭義のそれであることをあらかじめ留意されたい。

<調査方法>

調査地である札幌市を（A）札幌駅周辺、（B）大通公園西部・狸小路北部（南 1・2 条）、（C）大通公園東部（地下鉄バスセンター駅出入口等）、（D）狸小路南部・すすきの、（E）南 6 条以南の市街地周辺（中島公園等）、（F）札幌郊外南東部（地下鉄白石駅等）、（G）札幌郊外北部（地下鉄北 24 条駅周辺等）、（H）札幌郊外西部（円山公園等）、（I）河川敷・札幌郊外南部（東橋等）、（J）札幌郊外駐車場に分けて、調査員の巡回・目視により実施した。ホームレスであると思われる者を発見したときは調査票の必要事項（場所・性別・確認時刻等）を記入した。

<調査時期>

2020 年 1 月 26 日午前 3 時 00 分頃から同日午前 6 時 00 分頃にかけて実施。

(2) 調査結果

本調査の結果、30 名のホームレスが発見された。前年比－13 名の大幅減である。厚生労働省では「都市公園」「河川」「道路」「駅舎」「その他施設」の 5 区分及び性別（女性・男性・不明）で集計しており、これに従えば表 3.1 のようになる。発見場所では「駅舎」「その他施設」が割合多く、性別では昨年同様「男性」が圧倒的に多い結果である。

なお、30 名という人数は記録のある 2004 年度以降で最も少ない人数である（図 3.1）。全体的な傾向としては減少気味にあることがわかる。

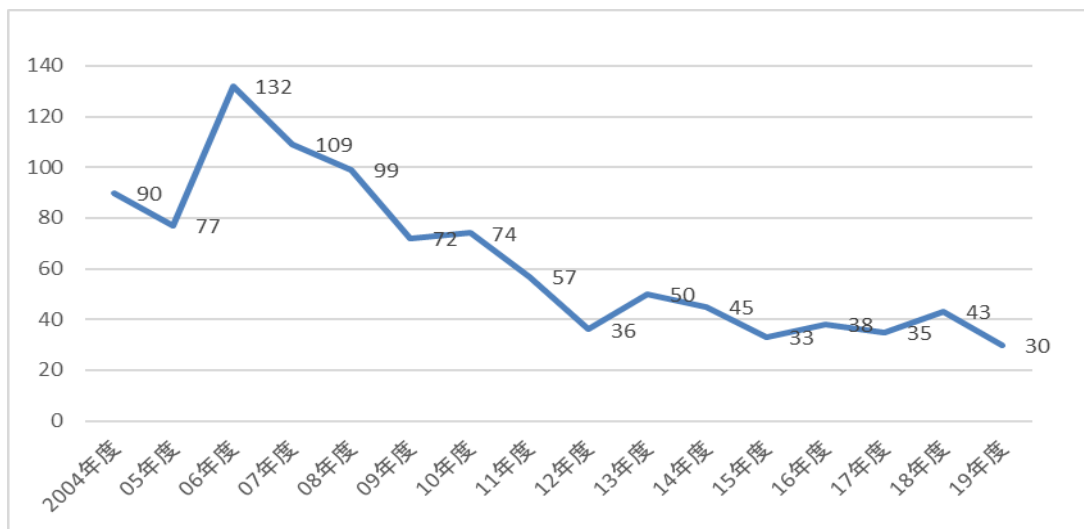
¹ 厚生労働省「ホームレスの実態に関する全国調査（概数調査）：統計の概要」
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/63-15a.html#link01>)。

² 同上。

表 3.1 発見場所及び性別のホームレス数 (単位：名)

	都市公園	河川	道路	駅舎	その他 施設	合計
女性	0	0	0	0	1	1
男性	4	5	2	6	6	23
不明	1	0	1	2	2	6
合計	5	5	3	8	9	30

図 3.1 ホームレス数の推移（札幌市） (単位：名)



(3) その他

1) 「車中生活者」という存在

「車中生活者」とは、車中を起居の場所として日常生活を営んでいる者である。本調査では、車中を起居の場所として日常生活を営んでいる痕跡のある自動車をもつ者を12台確認した。単純に自動車1台あたり「車中生活者」1人と見なすと12名も存在していることになる。とすれば発見されたホームレスは42名となるはずである。しかしながら、札幌市との協議の末、実際に「車中生活者」本人を確認できていないため（生活の痕跡のある自動車のみをもって）ホームレスとしてカウントするのは難しいのではないかと考えて、今回は「車中生活者」をホームレスとしてカウントするのは見送ることとなった³。

なお「車中生活者」に関して、本会では実態把握の必要性を強く感じ、来年度の活動方針「調査活動の強化」の中に「車中生活者調査の検討」を位置づけたところである。日本においては「車中生活者」に関する調査はほとんど実施されておらず、その実態はいまだ明らかにされていない。具体的な方法等検討すべき事柄は多々あるが早急に実施できるよう準備を進めていきたい。

2) 参加者の感想

本調査には勤医協関係者の方々に調査員として多数加わっていただいた。その方々から寄せられた感

³ ただし、札幌市の側から来年度の調査では「車中生活者」のカウントを前提にその方法について本会と事前に協議したいという申し出があったことは付記しておく。

想文の中から一部を抜粋・紹介することで本章の結びに代えたい。

・車上の確認をする際には、私たち調査員が車上荒らしなどの不審者に見えるので、市の委託書的な文書などを労福会の人でもいいので持っていてもらえるといいと思う（腕章やネームプレートでもわかり易いと思うが、対象者の警戒や他の方への目もあるので、問合わせの際に応えられるものであったらいいと思う）（M.U）。

・市職員の方が参加されていたので、少しでも良い方向に改善、支援されることを望みます（H.S）。

・札幌市職員の方々も同行され、野宿者の実態を目の当たりにされておりました。ホームレス状態にある方たちが、街中から追いやられている現実を放置することのない社会にするためにも、今回の調査結果を今後の行政の見通しや改善の一助として役立てていただければ幸いです（Y.N）。

・労福会のみなさんと数回の夜回りを経て初めての人数調査に参加させて頂きました。大通りエリアには1・2名しかいませんでしたが、テレビ塔の下でKさんが夜もそのまま雪の上に低いイスを置いて眠っているのを見て、本当に心配になりました。荷物をおいたり雪や雨をよけていた電話ボックスが撤去されて以来、余計心配が増したとおっしゃっていた労福の方がいて、せめて夜だけでも暖かく過ごせる場所があれば良いと思う反面、本人の意に反した支援はして良いのかという気持ちもありました（本人がシェルター等希望していないため）（H（学生））。

・実際にホームレスの人を目にすることは無かったが、西友（手稲）トイレで、ずっと閉まったままの個室がありました。同じグループの方が、たぶん寝ているんだろうと言っていて、初めてホームレスの実際を見た感じがしました。（中略）。今回は行かなかったですが、ゲームセンターにもいるのではないかと思います（K（学生））。

・ホームレスの方々とは炊き出しでお会いしたことはありましたが、外で生活するところを見させて頂くのは初めてでした。冬の寒い中、寝ているところを見て、健康状態が心配になりました。テント村があった話なども聞いて、もう少し暖が取れるところがあったら良いのにと思いました。しかし、当事者の方々の思いも様々だと思うので、寄り添いながらもっと長く参加して行きたいと感じました（M（学生））。

4. 夜回り

私たち「北海道の労働と福祉を考える会」は、夜回りという活動を行っています。そもそも「夜回り」とは、定期的に野宿者の人たちが多く居る場所へ出向き、そこで出会った人たちとコミュニケーションを取る活動です。近年当会では、毎月第4を除く毎土曜日の午後7時から、札幌駅周辺、大通公園（冬季は主に地下街）、狸小路から創成川の3コースに参加者を分けて、保温ポットに入れた麦茶（※1）、フードバンクから提供を受けている食パン、使い捨てカイロ（主に冬季間）を持参して巡回します。「最近、体調はいかがですか？」、「何か困っていることはありませんか？」などと問いかけ、緊急連絡先である当会保有の携帯電話番号、食事提供をしている団体の炊き出し日程・場所等を記載したチラシを配って、会話をします。

※1 以前は、熱い缶コーヒーを配っていました。それが、お茶に変わったいきさつを紹介します。2017 年京都で「寄せ場交流会」が開かれた時、労福会員 3 名が参加しました。その中の 1 人である事務局長の越橋君が、「京都夜回りの会」の夜回り（月・木の週 2 回）に参加しました。京都夜回りでは、熱い番茶を保温ポットに入れて、各コースの人が携帯し、出会った野宿者に、カップに注いで渡していました。渡された人は、「おおきに！」と言って、とても喜びます。その手作り感！ また、当時労福で毎週缶コーヒーを用意していた会員 1 名の負担を軽減するため、越橋事務局長が現在の方式を紹介して提案し、定着して現在に至っています。

夜回り活動の目的、意義の一つは、「野宿者の安否確認」です。また「野宿者等との信頼関係の構築」も、大切な目的の一つです。

3 点目は、「新たな野宿者の発見」で、ホームレス状態に陥って間もない人に対して、正しい情報を提供することによって、これからどうするか一緒に考えようというものです。

当会は、夜回り活動の参加者について会員に限定するのではなく、広く初心者である一般市民に公開しています。毎回と言っていいほど初参加の人が夜回りに来られますが、なるべく多くの人たちに、札幌市の野宿者の実態を知ってもらい、貧困問題について一緒に考えていただくきっかけにしたいと、思っています。

なお、今年度の夜回り活動の日時・参加人数・会えた人の数を表にまとめたものは「活動概要」で確認できます。

【平日夜回りの実施】

上記で述べた、夜回りの目的の 3 点目に関連して、定期的に同じ時間帯で同じ場所を回るだけでは、新たにホームレスになった人を見つけるのは、難しいのではないかという意見がでました。しかしながら毎土曜日に、夜回りの時間帯を変更して遅くすることは、一般市民に公開周知していることから難しい、しかも遅い時刻に終わると、札幌市内周辺区の方には、自宅に戻る交通機関がないという問題がありました。

そこで月 1 回、夜回りのない第 4 週の平日に、参加できる者を募って、時間帯を遅くして回る試みを、8 月 22 日（木）、9 月 25 日（水）、10 月 23 日（水）、11 月 27 日（水）の 4 回行いました。平日夜回りのみの数字を、抽出しました。

平日夜回り	8/22	9/25	10/23	11/27
参加人数	6	6	7	5
会えた人数	16	9	8	5

4 回行った結果、平日に行うのは、おそらく翌日の仕事があるため参加者が増えないことを主な理由として、定期的に続けるのは難しいとの結論になりました。

個人的な感想ですが、路上生活に慣れない人に手厚い支援をすることと、野宿問題を広く社会に知ってもらい賛同を得ること、2 つのことを同時に一人の者が行うのは難しいことだと感じます。当事者は、自分の問題が他人に知られることを望んでいません。

土曜日の夜回り時間帯をどうするかは、これからの議論になると思います。私が時折参加する、

「野宿者ネットワーク」大阪市西成区（釜ヶ崎）代表：生田武志氏 の夜回りは8時出発

「京都夜回りの会」京都市中京区 連絡先：本田氏 の夜回りは10時出発

ですが、どちらの会も比較的構成メンバーが固定されています。気候条件も、北海道のように厳しくはありません。

夜回りの日程・時間帯については、目的、時代の変化に合わせて、会員の総意で決めるべき事柄であると考えます。

5. 炊き出し

2019年度（2019年2月1日～2010年1月31日）は計4回の炊き出し相談会を実施した。それぞれの報告は以下のとおりである。

第1回【2019年2月23日】

この炊き出しは司法書士会との共催で行われ、食事（お弁当、味噌汁）・衣類の配布、散髪、法律クイズが実施された。来場者数は34名、法律相談件数は2件であった。近年の傾向と同様、来場者数は少なく、来場者全体に占める路上生活者数の割合は低かった。

今回の炊き出しではいくつか問題が発生した。時々起きる来場者間での言い争いや、会員でない参加者が過度に来場者に関与する出来事等である。このような出来事が起きた場合には会員個人では判断の難しいことがあるため、当日の責任者などを中心とした情報共有体制が必要と考えられる。

（※この文章は2018年度総会資料の再掲です）

第2回【2019年7月20日】

7月の炊き出し

2019年7月20日18時より 中央区民センター2階ホールで行った。

メニューはカレー。12時に担当者が集合し、なみすけで調理した。

全体統括 宇佐美実里 を中心に健康調査（身長、体重、血圧測定、握力測定、血糖測定）。

会議室Cで散髪。

余興は柿崎がキーボードで伴奏し、歌う人を募集した。利用者の参加はなかったが労福会のメンバーが歌った。今後も音楽活動を続けていきたい。

（文責：柿崎さとみ）

第3回【2019年10月19日】

炊き出し 10月19日（土） 中央区民センター 午後6時～9時

来場者 39名、相談件数 1件、司法書士 8名参加

【出張理容】について

いつもどおりの炊き出し報告書では、表題の上記2行で終わってしまいそうだったので、悩んだ結果、いつもお世話になっております散髪屋さん、折川さんと白木さん、散髪の話を書くことにしました。型破りではありますが、ご容赦くださいませ。

私が本会に入会した2005年には既に、炊き出し相談会が会の行事として定着しており、当然折川佳佑さんの散髪もありました。今年のちょうど秋の炊き出しの前週の10月10日（木曜日）、私が業務で市内手稲区西宮の沢の札幌緑誠病院に入院中の後見人さんを訪ねたところ、なんと白木美智子さんに会いました。まさしく題目の「出張理容」の最中だったのです。

理容師法では、理容行為は店舗で行わなければならないと決められていますが、その例外として、「出張理容」が認められています。私たち北海道の労働と福祉を考える会は、8年ほど前までは札幌市と共催で「炊き出し相談会」を行っていました。その当時札幌市保護指導課の係長に、炊き出し相談会での散髪が「出張理容」に当たるか、問い合わせた事がありました。答えは、該当しないという回答でした。散髪を受ける人が病気などの事情で理髪店に行けない、あるいは福祉施設等に入所している人のために施設に依頼されて出張する等、どの要件にも当てはまらないからです。もちろん行政庁の解釈が最終的結論ではなく、不服がある場合、裁判所に訴えて結論を出す方法もあります。司法書士の間でもこの問題を検討しましたが、理容師法の文言から考えれば、該当すると考えるのは難しいという結論でした。当時のこの「出張理容問題」を知っている司法書士も、半分以上去りましたし、わが労福会で経験したのは山内代表と私だけになりました。

現に折川さんが今でも、散髪をしてくれるし、その様なことはどうでもよいではないか、と考える人も居られるでしょうが、必ずしもそうとも言えません。理容師は店舗で業務をしなければならない、炊き出しでの散髪は出張理容に当たらないのであれば、折川さんは違法行為の責任を問われる可能性があるからです。札幌市南区藤野の折川さんの自宅を訪問して、この事を説明させていただいた時も、折川さんは、「そんなことは気にしないから、今まで通り散髪をやる。」と言っていました。その問題が顕在化した当時まで、長きにわたって札幌市との共催炊き出しの場で散髪が行われていた訳であり、その事実を札幌市係長に指摘すると、「私たちは健康相談会を主催しているのであり、炊き出しについては労福会さんの責任ですから、私どもは関知しません」という答えでした。白木さんには、この問題をまだ告げていません。白木美智子さんは、会員の渡辺知子さんの友人である理髪師さんの、またその友人として後任で、私たちを手伝ってくれています。

ここまでの経緯を思い起こすと私は、お二人の理容師さんに、申し訳ない気持ちで一杯です。もしも、お二人が理髪師の免許を持っていなかったとしたら、これは違法行為でもなんでもなく、何ら心配もする必要がありません。神戸市三ノ宮駅から海に向かって行ったところにある南公園で、年越しの越冬闘争、炊き出しが毎年年末から正月まで1週間以上に亘って行われています。その場で散髪をしていたの

で、理髪師さんかどうか尋ねたところ、違うというお答えでした。

皆様、このような話は退屈だったですか？

私が言いたかった事を、1つの文章にするとしたら、

炊き出しをはじめいろいろな行事は、多くの人たちの善意によって支えられている、

ただ、それだけです。

(文責：楠高志)

第4回【2019年12月21日】

今回は北海道民医連との共同開催となった。中央区民センターには、労福会20人、北海道民医連（医学生、看学生含む）32人の52人が参加した。食事は労福会が居酒屋なみすけさんの協力の元、水餃子ラーメンと太巻きを提供。民医連では、血圧測定、健康相談、健康体操、健康クイズなどの企画を行なった。募金で集めたクリスマスショートケーキの提供も好評。「美味しかったよ」「久しぶりに食べた」などの感想も。医学生が中心に準備した健康〇×クイズも、事務局のミスで〇と×の札を作成し忘れどくなるかと思ったが、参加者が自ら手を上げて〇と×を表現してくれ、質問の興味深さもあり楽しい企画となった。

リハ技師の皆さんが行った健康体操も、最初は立ち上がらなかった人もいたが、最後にはほぼすべての人が参加し、肩こり防止、転倒予防などの体操を行なった。血圧測定や医療相談は、12名が訪れた。血圧が高めの方も数名いましたが、治療に繋がっているとのこと。医師、看護師、SWが対応し、看学生が記録をするなど活躍してくれた。来場者は38人であった。

(文責：近藤良明)

※北海道民医連の皆さんから12月の炊き出し参加の感想を寄せていただきましたので掲載します。

Y. N

今回、初めて労福会のホームレス支援活動に参加させていただき、貧困問題のリアルさを体験する機会となり大変勉強になりました。このような地道な活動を20年以上も続けている労福会の存在を知り本当に素晴らしい取り組みだと思いました。全体を通しての率直な感想は、「炊き出し」が参加者の生活の大きな支えになっており、支援を必要とする方が大勢いる状況がある以上、このような支援活動を継続していくことが大切だと思いました。その一方で、常態的な貧困を無くするためには限界があり、ボランティアだけでは解決できない問題であることも実感できました。また、参加者同士でコミュニケーションが形成されており、参加者が常態化し、本当に支援を必要とする方に、行き届いていない状況もあるのではないかと感じました。例えば、「取り組みを周知できていない」あるいは、「来たくても病気などの理由で来られない」または、「そもそも支援を受けたくない」といった理由があるのかもしれない。

実際に、先月一度夜回りに参加させていただいたとき に、声をかけても拒否する方、逃げ出す方もいて、支援する側の難しさを感じました。その ためには、地道に「夜回り」や「炊き出し」活動を継続して、ホームレスの方の生活背景を 知り、一人ひとりに寄り添い信頼関係を作っていくことが必要なのだろう と思いました。 民医連の企画は、医療相談、健康クイズや体操など医療機関らしい創意工夫があり、ケ ー キの提供も参加者の様子からも好評であったと思います。顔の見える関係をつくることで、健康面 など困ったときに相談していただき受診に繋がればよいと思います。 準備・運営にあたった皆さん はじめ、ボランティア参加の皆さん大変お疲れ様でした。こ の度は、参加させていただきありがとうございました。

I. S

今回参加して一番印象的だったのは、想像以上に当事者の方たちが明るく楽しそうに談 笑していたこと です。日々苦勞しながら生活している方が多かったのではないかと思います。そんなことを感じさせないような雰囲気笑顔もたくさんみられました。募金で贈ら れたクリスマスケーキも大変好評で、「私、苺のショートケーキがとっても大好きなの」と 嬉しそうに頬張る方もいらっしゃいました。賑やかな一方で「生きていたって何もいいことはないんだ」と話す方もおり、どんな言葉 をかければいいのか分からず考えさせられる場面もありました。また、医学生と一緒に訪れ たある班では、ほとんどの方が顔見知り同士だということや、夜間に暖を取れる場所(例： 滞在を黙認してくれるコンビニ)など 様々な情報を共有していることを教えてもらいました。 情報網の広さに驚くと同時に、このネットワークに入れないと極寒の北海道で生き抜いて いくことは難しく、ある意味で生命線のようなのだとも思いました。 また機会があれば、医学生たちと一緒に参加したいと思います。大変学びになりました。

R. M

はじめて生活困難な方の支援に参加して新聞報道や本でかじった知識でしか知りませんでした が、実際に生活困難な方の支援に参加して自分自身の知識の補完と支援する内容は 様々だが困難な方に寄り添うことがいかに大切かと改めて思った。 人に寄り添うことは自分自身の考えの押しつけではなく支援する相手を主体にした対応が、 日頃していないと案外難しいのかもしれないと思いました。 支援してきた方たちは若い方が多く、今回のボランティアで何か学びとってくれたら良い など思いました。 人に寄り添うこと、人を思いやる事、支援するための事前準備など学習を深めてホームレス の方達ばかりではなく多くの困難な方に今回と同じように接してくれば良いなと思いま す。保健企画でも引き続きこのような取り組みがされている時は若い職員に積極的に参加 の声かけしていきたいと思います。 無料低額診療事業についても人々に周知されているとは個人的に思っていないのと、訪問 行動中に「薬局の薬代助成も理解したが、まずは無料低額診療事業が広まっていないと思う のでまずはその宣伝が先では？」と指摘もされたため、今回のように他団体と共催でも良 いので一緒に大通りなどで無低の宣伝行動を 2 か月に一回、3 か月に 1 回をペースに行な うなど取り組みを前進させていこうと思いました。

Y. I

三食満足に食事が摂れることは当たり前ではないな、と感じました。 生活に困っている方、本当に美味しそうに食事をしていたり、快く話して下さる方が多く、温かさを感じました。このような活動から、

「人の生活のために医療がある」と改めて感じました

<北海道民医連さんによる炊き出しの報告書>

北海道民医連ボランティア情報 2019 年 12 月 25 日担当近藤

「炊き出し」へのご協力ありがとうございました

路上生活者・生活困窮者支援 参加者 38 人

12 月 21 日（土）18 時より中央区民センターで開催された「炊き出し」には、路上生活者や生活困窮者など 38 人が参加しました。また、ボランティアは、医学生、看護学生含め民医連 32 人、労福会 20 人の計 52 人。

今回は、20 年間ホームレス支援を続けてきた「北海道労働と福祉を考える会」と北海道民医連の共同開催。食事は労福会が中心に準備。北 24 条の居酒屋「なみすけ」さんの協力のもと、水餃子ラーメンと太巻きを提供。民医連チームは、血圧測定、健康相談、健康体操、健康クイズなどの企画を行いました。募金で集めたクリスマスショートケーキの提供も好評。「美味しかったよ」「久しぶりに食べた」などの感想も頂きました。

医学生の皆さんが中心に準備した健康〇×クイズも、事務局のミスで〇と×の札を作成し忘れようかと思いましたが、参加者が自ら手を上げて〇と×を表現してくれ、質問の興味深さも楽しい企画となりました。

また、中病、札幌のリハの皆さんが行った健康体操も、最初は立ち上がらなかった人もいましたが、最後にはほぼすべての人が参加し、肩こり防止、転倒予防などの体操を行いました。

血圧測定や医療相談は、12 名の方が訪れました。血圧が高めの方も数名いましたが、治療に繋がっていることがわかりました。色々な相談がありましたが、医師、看護師、SWがお話を聴き、看護学生が記録をするなど活躍してくれました。

散髪あり、冬物衣料品、入浴券やタオル、石鹸、歯ブラシなどの配布も行われました。参加されたボランティアの皆さん、支援物資や募金などを協力いただいたみなさんに心から感謝いたします。ありがとうございました。



肩こり防止の健康体操を行う参加者



今後の労福会の予定について

12 月 28 日（土）21 時～夜回り エルプラザ 2F 集合
1 月 4 日（土）19 時～ 夜回り エルプラザ 2F 集合
1 月 11 日（土）19 時～夜回りエルプラザ 2F 集合
1 月 18 日（土）19 時～夜回りエルプラザ 2F 集合
ボランティア参加募集しています。詳細は近藤までご連絡下さい。

■次回の炊き出しは

2020 年 2 月 8 日（土） プラザ星園（南 8 西 2）
労福会と司法書士会の共催です。一般ボランティアを若干名募集しています。（近藤まで）

■ホームレス調査 参加可能な方募集中！（近藤まで）

2020 年 1 月 26 日（日）午前 3 時～予定
年に一度の公的な調査です。深夜ですが、ぜひ！

6. 生活保護申請同伴／フォローアップ・よろず支援／電話相談

(1) 生活保護申請同伴活動の現状

生活保護申請の同伴活動は、多い時は年間で72件（2003年）対応したということもあったのですが、ここ数年は10件未満で推移しています。これは労福会以外の支援団体の誕生、とりわけ有給職員のいる支援団体が増えたことで、（有給職員がいないという意味で）素人集団である労福会は相対的に役割の比重が減ったということが理由と言えるでしょう。2019年度に生活保護申請の同伴件数は4件でした。そのうち居室のない人の生活保護申請同伴は2件となっています。ただし、2件とも労福会の活動を通して信頼関係を築きつつ申請に至ったケースといえ、こうした路上からのお付き合いを地道に重ねて脱路上まで寄添うという支援方法は、他の支援団体ではほとんど見られないパターンだと思います。

労福会は地道な活動を続けていて偉いんです（自画自賛）。

2019年度生活保護申請同伴活動ケース一覧

日付		年齢	性別	同伴前の状況	同伴のきっかけ	同伴者
5/10	A	30代	女	居宅	メール	柿崎・楠
7/25	B	20代	男	居宅	炊き出し→電話	楠
7/22	C	60代	男	知人宅居候	夜回り→炊き出し	小川
10/21	D	60代	男	路上	夜回り→炊き出し	山内

Cさんの事例

Cさんは数年前から毎週の夜回りで会う人だったが、年齢や体力の衰えを感じて生活保護を受けたいと考えようになった。7月の炊き出しの際に労福会に相談し、小川労福会員に同伴を頼みたいという指名が入って申請をすることになった。

Dさんの事例

Dさんは2019年5月に路上生活を始め、すぐに夜回りで出会った。以来、ほぼ毎週会うようになった。東京の大学を卒業後、30年以上公務員として働き、早期退職制度を利用して3年前に退職した。退職金は1000万円くらいだった。退職後、実家に戻るも一か月ほどで両親と関係が悪化、家を飛び出してホテルを転々とする暮らしをしていた。お金が尽きたら死のうと思っていたが死ぬことができずに路上生活に。労福会の夜回りでいろいろと相談するうちに生活保護の利用を考えるようになった。10月の炊き出しの際に生保同伴をお願いされる。

他方で、ここ数年の労福会の総会資料でも触れていますが、最近の特徴として、労福会に寄せられる相談の中で、居室のある人から生活保護の申請したい（同伴をお願いしたい）という内容が増えており、かつその背景に複雑な事情がうかがわれる場合が多くなっていることがあります。

Aさんの事例

労福会に相談のメールを寄せた Aさんは、精神的な病で仕事を続けられなくなり、借金と公共料金（ガス）が滞納状態。一人暮らしで現金・預金の残高が数百円程度しかない。風俗の仕事をしていたが、先日退職し、最後の日当を借金返済に充てたがまだ相当の金額が残っている模様。申請後も債務整理の手続きなど引き続き支援が必要。

Bさんの事例

精神的な病が原因で仕事を退職し収入がない、妻との関係も整理（離婚届けを妻から受けとった）できたから、生活保護を受けて生活をやり直したいとのことだった。役所では（離婚が成立していないなら）生活保護は世帯員全員の申請の意思がないと却下になるという話をされたので、同伴した楠労福会員が「申請時に申請後の結果について予断をするようなことを述べるのはよろしくないのではないか」と牽制したところ、申請書を出してくれた。

AさんとBさんはともに精神的な病で仕事が続けられなくなり、生活が立ち行かなくなったため、生活保護を申請したい、精神的に参っているので一人で役所に行って受け答えをする自信がないということで労福会に相談があった事例です。

それぞれ別の事例ではあるのですが、その後 Aさんから債務整理の相談（後述）を受ける中で、ある友人との関係がこじれて（かなり生活に介入・支配された関係）、それが Aさんの生活上の不安を増幅させている面があることが判明しました。一方、実は Bさんは今回の生活保護申請の相談の前に、労福会の炊き出しにきて借金の整理について相談に来ていました。その時に「自分がうつ病になったのは妻のせいなのだ」と語り、家族関係をめぐる複雑な経緯が推測されました。

これら友人関係や家族関係のトラブルに労福会が支援者としてかかわっていくことは、会の力量から見ても不可能であると思われますが、それでも、それぞれの事例に立ち会った場合、どうしたらよいのか考えないわけにはいかない部分も出てきます。いずれにせよ、生活保護申請の同伴は、単なる制度利用のお手伝いだけではなかなか済まない事情に巻き込まれる可能性をはらんでもいえます。そのこと自体を労福会としてどのように考えるかということも論点の一つでしょう。

（2）フォローアップとよろず支援の現状

従来「フォローアップ」とは脱路上後の生活のケア・支援のことを指していました。労福会は毎年人の入れ替わりがあるため、組織の構造的にフォローアップを継続することは難しいのですが、「できる範囲」で行うということで細々と続けています（もちろん今後、よりよい方法がないかを検討する必要があります）。他方で、フォローアップ以外にも生保同伴の前に相談に乗ったり、生活保護に関すること以外の、生活上のいろいろな困りごとに対応したりと様々な支援活動も行っていました。しかし、これらはなかなか活動の記録として残ることはありませんでした。そこで今年度は毎週の運営会議の際に「支援活動報告」の時間を設けて、その把握に努めました（ただし、記録は不十分で日付や対応者の分からない場合も多い）。ここではフォローアップ活動も含めてそれを「よろず支援」と呼ぶことにします。

2019 年度よろず支援ケース一覧

		年齢	性別	支援の内容	対応者
2/27	E	60 代	男	部屋探し	越橋・山内
5/8	A	30 代	女	生保受給相談	楠・柿崎
5/22	A	30 代	女	債務整理	柿崎
7/20	B	20 代	男	生保受給相談	楠・山内
7/20	C	60 代	男	生保受給相談	小川
9/3	F	40 代	男	食料提供	楠・山内
9/9	F	40 代	男	食料提供	山内
10/19	D	60 代	男	生保受給相談	山内
10/21	G	不明	女	マーチ同伴	小川
11 月	H	不明	男	認知症老人保護	不明

2019 年度は 10 件（8 名）のよろず支援の報告がありました。以下、生保同伴につながったケースを除き、報告書の提出のあった事例（3 つ）のみ簡単に概要を示しますが、なかなか一筋縄で支援が進んだとは言えないものもあり、労福会の組織構造の問題だけでなく、そもそも支援を継続していくこと自体の難しさが浮き彫りになりました。

①E さんの事例

1 月中旬に出所後した E さんは、いわく「行くあてもなかったため刑務所であっせんされた」（刑務所はあっせんしないのでおそらく法務省と厚労省で行なっている「協力雇用主制度」と思われる）建設会社に住み込みで働き始める。しかし仕事のやり方が危ないと言われ、5 日くらいで待機扱いとなり、結局クビになった。会社からは生活保護の受給を勧められ、寮費も納められないためそうすることにした（寮を住所に申請）が、いつまで寮にいるんだと 2 月中旬に追い出される。CW からは早く住所を決めるよう言われるがなかなか決まらない。保証会社が通らないからだという。途方に暮れていたところ、コンビニのイトインで知り合った人に労福会を教えてもらい、相談に至る。

→不動産会社ユニオンブライトに行ったらアパートを紹介され入居が決まったが、その間のおしゃべりの中で、自分の犯した罪の内容を具体的に述べていた。山内会員はそれを聞いて、この人を継続して支援することに対して躊躇する気持ちになってしまった。

②前掲 A さんの事例

生活保護申請の同伴もした A さんから、引き続き債務整理支援をメールにて依頼され、法テラスにつないだ。消費者金融とカードローンの債務手続きが開始され、弁護士からは問題なく破産手続きができる見通しであるとのことだった。ところが本人が札幌から身内のいる関東に引っ越したい、役所に相談するも引っ越し費用は出せないと言われたという相談を始めた。理由は「現在、人間関係に問題があり・・・」とのこと。札幌を離れると法テラスも管轄外になるので手続きを継続できないと弁護士は伝え、お互いに誤解が生じている可能性もあるので、あらためて相手と話し合ってはどうかと助言した。本人はうなずいていたが、納得できたかどうかは不明。

→その後、法テラスの別の弁護士に相談をしたようであり、音信不通になった。

③Fさんの事例

9月3日午前8時過ぎに労福会HPに記載している相談メールに「何でもいいので食べる物が欲しいです」との件名の相談が入る。本人の仕事は21時過ぎに終了するというので、その時間に5食分のカップ麺を持って待ち合わせの苗穂駅にいった。Fさんは名古屋にいたのだが、3か月前に友人を頼って来札し、その友人とルームシェアしてしたが、折り合いが悪くなり、部屋を出て会社（運送業）の社員用の休憩所で寝泊まりしている。会社にはこのことは内緒にしているとのこと。一日16時間労働で週6日働いているが、給料日が翌月上旬であるため、現在所持金0円。もう3日間食事をとっていないとのことだった。北海道には覚悟を決めてきたから本州に戻るつもりはないとも言っていた。住む部屋がないということだったのでジョインのパンフレットを渡したが、もう少し考えてから決めたいとのことだった。

→その後、9日に再度食事が欲しいとの連絡があり、食事を持って行ったが、その時には友人宅に戻っていた。給料が出たら（20万くらいらしい）、部屋を借りたいと言っていた。その後は連絡なし。

（3）電話による相談の現状

労福会のホームページ（<http://www.roufuku.org/>）では、問い合わせ先として労福会の携帯電話（09075158393）を公開しており、こちらを経由した相談がかなりあります。しかし、それはたまたま電話を持っていた人が都度対応してきただけで、これまではその頻度や内容などが整理されたことはありませんでした。先述しましたが、今年度は支援活動報告の時間を運営会議に位置づけたことで、その実態が少し見えてきました。

記録を取った4月から1月末日までで生活保護同伴やフォローアップ・よろず支援につながったケースを除いた件数は27件で、そのうち16件は同一人物からの継続的な相談でした。また、この数字はあくまでも運営会議に報告記録があった件数であるため、記録に残っていないケースや会議のなかった週の報告は漏れている可能性が高いことは注意が必要です。

2019 年度電話相談活動ケース一覧

月	日		電話相談の主な内容	対応者	報告のあった 会議の日付
4 月	2 日	I	江別在住で受給中だが厚別区に引っ越したい	山内	
	5 日	J	山口県にいる元交際相手を助けたい	山内	
	9 日	K	役所の対応について	山内	
	10 日	K	役所の対応について	山内	
5 月	不明	L	障害等級 2 級の人からの相談（内容不明）	楠	5/4
	7 日	M	知り合いの高齢女性の生活困難について問い合わせ	山内	
	7 日	K	役所対応について	山内	
	30 日	N	介護に関する相談	山内	
	30 日	K	役所の対応について	山内	
	31 日	K	役所の対応について	山内	
6 月	不明	O	生保申請したい人がいるとの連絡（結局本人現れず）	須田？	6/22
	不明	K	役所の対応について	須田？	6/22
7 月	18 日	P	脱路上したい	山内	
8 月	不明	K	役所の対応について	不明	8/3
	不明	K	役所の対応について	須田	8/10
	不明	Q	食料が欲しい	須田？	8/10
9 月	不明	K	生活保護やめたい	掛田	9/7
	13 日	R	豊平教会より労福会に相談したいという人がいる	山内	9/14
	不明	K	役所の対応について	楠	9/21
10	不明	K	役所の対応について	山内	10/26
11 月	4 日	K	役所の対応について	楠	
	不明	S	食料が欲しい	小川	11/16
	不明	K	役所対応について	小川？	11/23
	不明	K	役所対応について	山内	11/30
1 月	9 日	K	役所対応について	山内	
	不明	K	役所対応について	楠	1/18
	不明	T	仕事探しについて	山内	1/25

(4) 生保同伴／フォローアップ／よろず支援／電話相談の活動の課題

(1) ～ (3) の全体を通して言えることは、活動にかかわる人数の少なさです。上記の表に出てくる名前は 7 名だけ（小川、柿崎、掛田、楠、越橋、須田、山内）です。

たしかに、夜回りや炊き出しに比べて大変そうな印象もありますが、その人の人生の大切な瞬間に立ち会える可能性があり、これこそ労福会活動の醍醐味と言っても過言ではありません。これを経験する人が少ないのは労福会の活動の意義を感じる機会の少なさにも通じており、近年の会員減少とリンクしているように思えます。

素人集団が専門的な知識もなく関わることの危うさを心配する声もありますが、当事者にとって大切なのは専門的知識よりも、自分の味方になってくれる存在かどうかのほうが大きい。労福会が素人集団であるがゆえの存在意義とは何なのか、考える必要があります。

7. お世話になった関連団体の皆さま／寄付をいただいた皆さま

2019 年度は労福会設立 20 周年ということで、これまでお世話になった方々に呼び掛けて記念企画を行う予定でしたが、「コロナ騒動」で残念ながら中止となってしまいました。しかし、企画を計画していく中で、20 年間の労福会の活動を、資料をみながら振り返っていると、労福会は様々な支えがあって成り立っていた（いる）ことをあらためて確認することができました。もちろん今年度もたくさんの皆さまにお世話になりました。

2019 年度も毎週行う夜回りで配布する食料を提供していただき、また、炊き出しの食材の提案もしてくださった**札幌市福祉生活支援センター**様にはあらためてお礼申し上げます。

ホームレス相談支援センター（JOIN）様には、夜回りで出会った脱路上を希望する方たちの対応を何度お願いしました。また今年度は**あじー**様や**ベトサダ**様に直接連絡をして受け入れをお願いしたこともありました。土曜の遅い時間でも快く対応いただいたことを感謝しております。

池袋を中心に支援活動をしている **TENOHASHI の岡室**様には毎年何度も大量のカイロを寄付していただきました。また、**ビッグイシュー札幌**様からもたくさんのカイロをいただいております。今年度は「カイロないの?」「カイロちょうだい」という言葉が、夜回りで聞く第一声だったように思います。

札幌司法書士会様とは年 2 回の炊き出し相談会を共催で行っていますが、今年でもう 15 年目となります。事前の打ち合わせをほとんど行わなくてもスムーズに運営できているのは長年の関係の賜物だろうと思います。が、来年度は新しい取り組みが提案できるよう考えていきたいと思っております。

炊き出しの食事提供については、**居酒屋なみすけ**様の協力なしには成立しませんでした。楽しい雰囲気ですぐに食事の用意をさせていただき感謝しております。また、20 周年企画後の懇親会については、コロナ騒ぎで貸切予約を突然キャンセルしてご迷惑をおかけしました。この埋め合わせができるよう、今後も労福会の企画等の打ち上げに利用させてください。

北海道民医連様には炊き出しで血圧測定や健康相談、健康体操企画を担当していただき、企画メニューの充実にとってもお世話になりました。また、民医連の関係者の方々からたくさんの寄付をいただいただけでなく、労福会の会員として活動するようになった方もいらっしゃいました。来年度以降も様々なことを協力して行っていきたいと思っております。

最後に、2019 年度も労福会の活動に賛同いただいた個人の方々からも多くの寄付を寄せていただきました。記して感謝申し上げます。

(2019 年 2 月～2020 年 1 月までの期間に寄付をいただいた皆さま ※会員は除く)

安良城侑生様	岡室恵様	五十嵐文子様	石神幸郎様	加藤朋子様
唐神知恵様	小林幸一様	鈴木万紗子様	廣瀬知弘様	森下敏行様
ジェラルド・ハルボーセン様	2019 年度実態調査の調査員の皆様			

8. 会計報告

2019年度 会計決算書 (2019.2.1～2020.1.31)

北海道の労働と福祉を考える会

会計担当：波田地

1. 収支計算書

【収入】

(単位：円)

勘定科目	年間計画(A)	決算(B)	差引(B-A)	内訳	金額	計画
会費	100,000	87,000	-13,000	一般会員会費	82,000	100,000
				賛助会員	5,000	
事業収入	450,000	485,270	35,270	実態調査(目視)	479,270	430,000
				実習受託料 北星学園	6,000	20,000
助成金	-	-	-		0	
寄付金	200,000	324,000	124,000			
雑収入	500	35,323	34,823			
収入計	750,500	931,593	181,093			

【支出】

勘定科目	年間計画(C)	決算(D)	差引(D-C)	内訳	金額	計画
活動費	730,000	546,539	-183,461	夜回り	63,917	50,000
				炊き出し	221,989	200,000
				同伴・フォロー	2,386	30,000
				実態調査	258,247	250,000
				その他	0	200,000
組織費	295,000	169,562	-125,438	意見交換会	0	0
				組織対策費	153,000	240,000
				広報費	6,562	40,000
				研修費(学習会含む)	0	10,000
				連携費	10,000	5,000
運営管理費	228,000	166,692	-61,308	事務所費	95,200	100,000
				会議・通信・交通費	47,699	60,000
				事務消耗品費	3,545	5,000
				活動補助費	3,000	30,000
				雑費	17,248	33,000
貸し倒れ損失		60,000		17年度貸付2名分		
20周年記念行事	200,000	13,686	186,314			
支出計	1,253,000	956,479	-296,521			
当期収支	-502,500	-24,886	477,614			

2. 資金収支計算書				
(1) 今期資金収支				
①当期収支	-24,886		今期の額⑥	前年度の額⑦
②仮払金・未収入金の増	-42,383		479,270	521,653
③未払金の増	-1,218		3,782	5,000
④今期資金収支	16,279	①－②＋③		差し引き⑥－⑦
				-42,383
				-1,218
(2) 繰越金の計算				
⑤前期繰越額	1,427,253			
④今期資金収支	16,279			
次期繰越金	1,443,532	⑤＋④		

3. 財産目録				
(1) 資産				
①現金・資産				
勘定科目	金額	摘 要		
現 金	40,995			
普通預金	451,604	北洋銀行		
	800,933	ゆうちょ銀行当座預金		
	150,000	ろうきん		
	1,402,537			
現預金計	1,443,532			
②その他の資産				
勘定科目	金額	摘 要		
未収金	479,270	概数調査委託費		
合計	479,270			
③その他の負債				
勘定科目	金額	摘 要		
未払金	3,542	海老澤元事務局長 未精算仮払い		
〃	240	事務所家賃消費税差額分支払い		
合計	3,782			
(2) 簿外資産				
【備品】				
品名				
品名	取得日	取得額	保管場所	摘要
デジタルカメラ	〃	14800	星園プラザ	ディスプレイ故障
外付ハードディスク	〃	6800	星園プラザ	
パソコン(Lenovo)	2011.08.11	36440	星園プラザ	
ポイストレック(IC録音機)	2011.08.11	4930	星園プラザ	
データプロジェクタ	〃	53799	星園プラザ	
プロジェクタスクリーン	〃	11488	星園プラザ	
パソコン(富士通)	2016.04.09	2000	会計担当宅	
【金券】				
品名	枚数	単価	金額	摘要
お米券	5	@440	2200	波田地管理
風呂券		@400		楠管理

9. 2019年度の役員及び会員

○役員

代表 : 山内太郎
副代表 : 小川遼
事務局長 : なし
事務局次長 : なし
監査役 : 安東朋美、沼澤哲也
支援者相談員 : 平田なぎさ

○会員一覧（19年度会費納入者）

竹之内 有美	今井 由郎
小笠原 淳	渡部 友子
平田 なぎさ	楠 高志
棚橋 ますみ	石橋 孝彦（賛助会員）
佐々木 かおり	唐神 知江
柿崎 さとみ	米本 智昭
山内 太郎	波田地 利子
須田 伸	成田 森太郎
山田 大樹	小倉 菜穂子
足立 浄佑	石崎 龍之介
小林 真弓	関本 幸一
小西 達貴	宇佐美 実里
亀山 紗希	内山 明
五十嵐 文子	木村 将人
斉藤 楓	掛田 晃二
東松 裕佳	上川 拓哉
近藤 良明	村井 勇太
高田 晃太郎	安東 朋美
沼澤 哲也	石崎 龍之介
松本 麻依	大野 慶
大瀧 雅史	村山 健
飯尾 智憲	布川 敦士
小川 遼	山本 朱莉

計46名（+前年度会員で今年度未払い17名）

10. 審議事項

1. 2020年度の役員について

- ・代表（1名）：山内太郎（継続）
- ・副代表（2名以内）：小川遼（継続）、柿崎さとみ（新規）
- ・事務局長（1名）：近藤紘世（新規）
- ・事務局次長（1名）：大野慶（新規）
- ・監査役（2名）：安東朋美（継続）、沼澤哲也（継続）
- ・支援者相談員：平田なぎさ（継続）

2020年度は上記の役員で臨みたい。2019年度は事務局体制が組めるよう事務局長、事務局次長を中心に運営をしていきたいと思います。

2. 2020年度の活動方針

・活動方針①：「調査活動の強化」

厚労省実態調査の調査方法の見直しについて検討する。また、車中生活者調査や貸倉庫調査、夏の人数調査などの調査の実施を検討する。調査にかかる費用については、助成金申請など会の財政を圧迫しないように配慮する

・活動方針②：「他団体との連携強化」（炊き出し）

これまでどおり、司法書士会と連携した炊き出し（10月2月）に加えて、北海道民医連と連携した炊き出しを実施する。現時点では5月に民医連の事務所（北14西3）を炊き出しの会場として使用することを試みる予定であるが、新型コロナウイルスの影響をにらみながら実施について判断する。いずれにせよ、共催ということになれば費用負担（会場費や風呂券など）を案分できれば実施回数の増加も検討できる。7月や12月にも実施できるようスケジュール調整を図る。

・活動方針③：「新たなニーズの掘り起こし」（夜回り）

今年度の「平日夜回り」の経験を踏まえて、通常の夜回りと異なる曜日や時間帯に夜回りを実施することで、これまで会ったことのなかった人とである可能性があることが分かった。ただし、平日は参加者が集まらないため、第5土曜日（5月30日、8月29日、10月31日、1月29日）に実施することを検討する。

・活動方針④：「学習する機会の設置」

今年度は第4土曜日に学習会を企画していたが、それを継続する。基本的に事例検討は労福会で扱った事例となるがネタがなければJOINなど他団体での事例の紹介をお願いする。今年度は20周年企画があったので、講演会の企画や寄せ場交流会・越冬闘争などの参加（費用の補助）を見送ったが、2020年度は復活させる。

・活動方針⑤：「会員の確保及び増員」

2019 年度の反省を踏まえて、会費納入の締め切り（6 月末）の呼びかけを徹底すること、また、組織対策費を設けて新歓企画を立てることは今回しない。ビラやチラシを掲示・配布するなど広く労福会の存在を周知する活動を粘り強く行うこととした。

・活動方針⑥：「20 周年記念企画のおとしまえをつける」

記念誌発行に向けて動く。

3. 2020 年度の予算案について

2020 年度方針の内容を踏まえて下記の通り予算を立てることとした。

①収入については、会員数を 2019 年度同様 50 名の確保を目指すこと、調査にかかる費用については一部助成金を活用することを想定して予算を見積もっている。なお寄付金収入については、2019 年度は 20 周年記念に伴う収入増だったことから、2018 年度と同規模で見積もった。

②「その他の調査」について、助成金と同額の支出を計上した。足りなければ補正を組んで予算執行することとしたい。

③「組織対策費」は 2020 年度は凍結する。なお、新歓用のビラ等は「広報費」から支出して充てることとする。

④「研修費」において、研修参加費補助および旅費補助費を復活させて 10 万円を計上した。

⑤20 周年企画が 2 月 29 日開催予定だったことに伴い、講演講師への謝礼等の執行が 2020 年度会計に手執行されること、また、記念誌の発行を予定するということで、2019 年度失効した額の差額分を支出として見込むこととした。

収支は 40 万円弱の赤字となる見込みだが、そのうちの 20 万円弱は前年度から繰り越した 20 周年事業にかかる支出となる。それでも 20 万円ほどのマイナス収支だが、前年度同様に、貯めこんでいても仕方がないので、活動を充実させることが会員の獲得につながると考え 2020 年度の予算を執行していきたい。

2020年度予算案(2020. 2. 1~2021. 1. 31)

北海道の労働と福祉を考える会
(単位: 円)

【収入】						
勘定科目		19年度決算	20年度計画	差引	20年度計画内訳	金額
会費		87,000	100,000	-13,000	一般会員50名	100,000
事業収入		485,270	476,000	9,270	実態調査	470,000
					北星大学実習謝礼	6,000
助成金		0	200,000	-200,000		
寄付金		324,000	200,000	124,000		
雑収入		35,323	0	35,323		
収入計		931,593	976,000	-44,407		
【支出】						
勘定科目		19年度決算	20年度計画	差引	20年度計画内訳	金額
活動費	夜回り	63,917	50,000	13,917		
	炊き出し	221,989	200,000	21,989		
	同伴・フォロー	2,386	20,000	-17,614		
	実態調査	258,247	250,000	8,247		
	その他の調査	0	200,000	-200,000		
	計	546,539	720,000	-173,461		
組織費	組織対策費	153,000	0	153,000		
	広報費	6,562	40,000	-33,438	ビラ・会報の発行等	
	研修費	0	110,000	-110,000	研修参加費補助	20,000
					研修旅費補助	80,000
					学習会	10,000
	連携費	10,000	5,000	5,000	反貧困ネットワーク	5,000
	計	169,562	155,000	14,562		
運営管理費	事務所費	95,200	100,000	-4,800	事務所家賃	90,000
					ロッカー賃借料	10,000
	会議・通信・交通費	47,699	60,000	-12,301	会議費	10,000
					通信費	35,000
					サーバ更新費	8,000
					交通費	7,000
	事務消耗品費	3,545	5,000	-1,455		
	活動費補助費	3,000	33,000	-30,000	活動費補助(6名)	18,000
				ボランティア保険(50名分)	15,000	
	雑費	17,248	30,000	-12,752		
	計	166,692	228,000	-61,308		
20周年事業		13,686	186,000	-172,314		
支出計		896,479	1,289,000	-392,521		
今期収支		35,114	-313,000	348,114		

私と労福会

振り返りと抱負

大野 慶

相変わらず（なみすけへの出勤回数は人並み以上＝オーバーワークであったが）夜回り・炊き出し等への参加はあまり振るわなかった。もう5年くらいこのような状況である。それでも今年は何かしている感を醸し出したかったので、労福会独自で実施した調査のデータの集計・分析など大学院生なら誰でもできそうな仕事（だけ）を引き受けたりしていた。そして最近になってようやく本腰入れて関わろうという気持ちになってきたので、来年度より事務局次長を引き受けることにした。とにかく新事務局長の近藤くん任せにしないように善処したい。

私と労福会

小川 遼

名ばかり副代表を務めて何年か経った。楠さんは副代表をちゃんといろいろやってたのに。太郎さんも代表兼事務局長というかんじでいろいろやってるというのになあ。

やったことはといえば、ホームレス支援関連のエモいエッセイをいくらか書いたくらいだ。ここ2年間くらいのささやかな活動である。水上さんところのフリーペーパーとか、米本さんところのフリーペーパーとか、自分のところのフリーペーパーとかに。理屈っぽいものよりも反応がいい。自己責任論っぽい反発も生まれづらい。もちろんそういうのが起きないように書いているというものもあるけれど、ネオリベクソ野郎にもちゃんと人間的な共感能力があって、打ち方によってはちゃんと響くということだ。それがわかって少し安心する。

僕はとにかく、近頃の労福会にはなんともいえない素敵さがあると思う。学生がたくさんいて天下国家を論じるような感じも最高だったけれど、酸いも甘いも噛み分けたベテランたちがキャッキャウフフしているのも最高だ。労福会はいつだっていまが黄金期というのは太郎氏の言葉であるが、そのとおりだ。

私と労福会

関本 幸一

長い間多くの方々にお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

活動の中で見聞きした貧困の実態や、夜回りや炊き出しの際に受けた叱咤激励といった現場での経験は、今後関わり続けなくてはならない「人・人間」を考える上で非常に有意義なものでした。自分や相手、その周りの人達環境が長期的に見て少しでも良くなるように、良くなったと思えるように、多少無理して今後頑張っていければと思います。青二才がどこまでできるかわかりませんが。

勤医協で仕事をしています。勤医協は「無料低額診療制度（無低）」を利用できる医療機関です。貧困と格差が広がり、お金が無ければ医療に繋がれない事態が広がっています。そのため、症状があるのに我慢に我慢を重ねて、どうしようもなくなって病院にたどり着いたときには、残念ながら手遅れ状態という悲しい事例が毎年発生しています。なので、「無低」をより多くの人たちに知ってもらい、「お金が無くてもまず受診して」と呼び掛けています。ただし、この「無低」は院外処方箋が発行された場合、保険調剤薬局の薬代はその対象とならないため、自己負担が発生します。国の制度なので、厚労省交渉などで制度改善を求めています、なかなか実現しません。そこで国の制度になるまでの間、各自治体に助成をお願いする取り組みを行い、この間、旭川市や苫小牧市、東川町、東神楽町などで助成する制度が作られてきました。残念ながらこの札幌市は、署名を1万筆以上集めて要請していますが、なかなか具体化してくれません。それで、労福会をはじめ多くの団体の皆さんにも、この実情を知って頂き、運動の協力をお願いしたいと思い、山内代表とお会いしたのが労福会と私の最初の接点です。

9月28日の労福会拡大運営会議（学習会）で、テーマにして頂き保健企画の丸山さんと一緒にお話しさせて頂きました。その時、労福会の活動を知り、その翌週から「夜回り」に参加するようになりました。そして10月19日の炊き出しには、職場の同僚看護師も参加し血圧測定と健康相談をさせて頂きました。12月には労福会と北海道民医連の共催で炊き出しも行うことが出来ました。歴史的には民医連と労福会の接点や連携はかなり行われていたと聞いていますが、私自身は参加したことがありませんでした。この半年間参加させて頂いて、たくさんのことを学んでいます。そして、ここに参加してくる多くの皆さんとのつながりが楽しみになっています。民医連の仲間たちも、この活動を知ったら参加したいと思っている人はたくさんいると思います。しばらくの間、その橋渡しもしたいと思っています。これからも宜しくお願いします。

私と労福会—これが私の生きる道—

掛田 晃司

私が本支援団体の活動に参加するようになったのは、丁度一年くらい前のことであった。当時私は、生活保護の制度など関して学習して間もなかった。そのため、「なるほど、この国には経済的理由で生活を維持できなくなった者を隈なく救い上げることのできる制度があるのか」と浅はかな理解が身についていた。そのようなことから、ホームレスや路上生活者の存在を信じることができずにいた。

しかし、現実はその単純なものではなかった。私は、本支援団体の活動に参加して、実際に家を失くした者や行くあてもなく札幌の街を放浪する者を目の当りにする。なぜ、生活保護を受給しないのか、なぜそこまで苦しんでまで生活を続けるのか、当時の私には理解できなかった。

でも今ならその理由が少しわかるような気がする。

おそらく彼らは、自分らしい生活を送ることを望んでいるのではないだろうか。私は大学で学んだことと本支援団体での活動を通して、生活保護を受給した状態の生活は、国の支配下に置かれることともはや同等の意味を指すのではないかと考えるようになっていった。私はこのようなことから、自分の意思で生きることの難しさとそこに秘められた輝きを見出した。果たして、社会的な偏見と人々の冷たい視線と闘う彼らの生活はいつまで続くのだろうか。私は、支援者ではなく一人の人間として、彼らの生きる道のその先を見つめていきたい。

私と労福会

渡辺 康太

きっかけは、北大の法学部掲示板にひっそりと貼ってあった一枚のポスターだった。「札幌にホームレスっているの？」そんな言葉に興味をひかれた。労福会という名の団体が活動していることを知り、ネットで HP や SNS を調べてみると更新が途絶えており活動している雰囲気は全くない。2019年9月ごろの話である。そうか、この団体はもうやってないのか、そう諦めかけていた。

でももしかしたら活動を続けているかもしれない。2か月くらい葛藤を抱きながら、勇気を出してメールをしてみると活動しているとのことだったので早速12月の最初から夜回り、炊き出しに参加を始めた。

「もっと早く知っていれば…」私と労福会のエッセイで一番言いたいのはこの言葉である。大学4年の12月に活動を始め、3月にはもう就職で東京へ行ってしまうので労福会の活動に参加出来なくなってしまう。活動を進めていくと、夜回り、炊き出しはもちろん、そのあとの飲み会も含め全てが面白い。こんな面白い団体をもっと早く知ってたら自分の人生また別の方向に進んでいたのかなと思ってみたり。必ず興味をもつ人がたくさんいると思うので、そうした人に労福会の存在がもっと届けばいいと思う。

短い期間ながら印象的だったのは夜回りと飲み会である。なるほど。本当に札幌にホームレスがいたことにまず驚いた。そして、彼らが他の人と区別が難しいくらい普通の恰好、雰囲気だったことに驚いた。何か偏見めいたものがあり申し訳ないが、夜回り参加前はホームレスに対しての固定像のようなものを自分は持っていた気がする。匂いとか身なりとか段ボールとかそんなものに対してである。実際夜回りをしてみて、確かにそうした人もいたけれど、ほとんどの人がそんな固定像のホームレスではなくて、自分もしてそうな身なり・雰囲気だったことに衝撃を受けた。そんな彼らに労福会として何ができるのか。自分は数回しか参加できなかったこともあり、世間話したり、食べ物・飲み物を配ったり、そんなことしかできなかったけど、素人集団（そういう集団だという話を労福の方からよく聞いた）だからこそできるのだと参加回数を重ねるごとに気付いた。気付くきっかけを与えてくれたのが飲み会である。

飲み会。ただお酒飲んでどちゃどちゃやるだけのように思えて、意外と学ぶことが多かったよ

うに思う。例えば、「支援を行う心構え」。あんまり気負いすぎても続けられないよという話を聞いた。福祉の世界は支援にたいして期待する結果が得られないことも多い。あまり気負いすぎると裏切られたときのショックは大きいだろうし確かにそうだと感じた。また、「労福会の存在意義って何だろう」という話もなるほどと思った。ホームレス支援のプロ集団がある中で労福会の役割とは。話を聞いて自分の中で咀嚼して考えると、役割は素人集団故の気軽さにあると感じた。毎週土曜に夜回りに来てなんでも聞いてくれる集団、そんな集団だからこそ話せる悩みとかあるだろうし、安心感もあると思う。プロと支援者の間のぼんやりした立ち位置。そういうのも必要だと考えると本当に素敵な集団だなと感じた。こうした学びがあったり、活動で気になること、普段気になること、いろんな話を飲み会の場で話せたことが自分の中ではすごく楽しく有意義な時間だった。

わずか3か月しか関われなかったけど、労福会での経験はすごく楽しかったし、自分の人生にプラスをもたらしてくれるものだった。就職先の厚労省で社会援護系の部局に入れたら、労福会での経験を思い出しながら、仕事に取り組んでいきたい。そしてまたいつか夜回りに参加できたらと思う。

たとえ砂漠で命尽きようと

太郎丸

三十歳という年齢を、皆はどう捉えているのだろう。私は嫌なことは極力考えないようにする性格で、例えばなにか失敗しても、反省しないばかりか努めて忘れようとする人間である。そのせいで多くの失敗も重ねてきた。昨年末、三十歳を迎えた時もそうだった。自覚したくないために、自分の年齢を忘れようとしている。他人から「おいつつですか」と聞かれるたび、三十歳であることを思い出し、不機嫌になる厄介者である。

労福会に入ったのは二十歳の時だ。当時の私は、自分の将来像を二十六歳までしか描けていなかった。沢木耕太郎の「深夜特急」に憧れていたこともあり、沢木と同じ二十六歳になったら世界中を放浪しようと考えていたものの、その後のことは白紙。どこかの異国で根を下ろすもよし、日本で再就職するもよし、あるいは旅で死ぬもよし、とも考えていた。結果的に、無難に再就職に落ち着いたものの、三十歳になった今、またいつ帰るかも分からぬ旅に出ようとしている。

気が付いたら、いつもどこか別の場所にいる。そのくせ、旅立つ前はいつも憂鬱で、快適な家から一歩も出たくないというのだから、不思議なものだ。しかし、これまた不思議なもので、ひとたび出かけると、もうあの家には戻れないと思ってしまう。

「生活の基盤を固めていく時期なのに、飽きれるほかない」と父は言う。そんな意見を耳にするたび、砂漠の墓が頭に浮かぶ。石ころばかりが転がる荒れ地で、ただ人を埋めただけの、墓標もない墓。墓というより、場所。ただその場所で人が死んだから、家族か、あるいは通りがかりの遊牧民が埋めたのだろう。

人が通ることもまれな、砂漠の墓標を見るたびに、この人にはどんな人生があったのだろうかと考えた。私が生きた十年を、この人も生きていたのだろうか。この人の十年を、いま世界でどれだけの人が知っているのだろうか。

ホームレスの人から話を聞き、いつも感銘を受けるのは、目の前にいるこの人に、自分とは全く違う時間が流れている、という事実である。例えば目の前の人十年刑務所に入っていたとして、その人の過ごした長い年月を想像することはできても、実際に感じることはできない。それは、誰にも知られていない時間である。そんな時間が誰にでもある。言葉にすれば実に陳腐だが、彼らの話を聞きながら、いつもそんな不思議を感じていた。

自分以外の人の人生を知る、それはとても尊いことだ。この十年の間で、亡くなった元ホームレスの人がいる。学生だったころ、その人の生活保護申請に同行し、付き合いを続けた。出会ったばかりの頃は憔悴し切り、鋭い目をしていたが、やがてどんどん太り、人懐こい笑顔を見せた。その人は死んでしまったが、その人生を私たちは知っている。当時はその人との関わり方でいろいろ悩みもしたが、死んだ後、ああそうだったのかと腑に落ちた。私たちがその人生を知ること、その人はいくらか救われたのではないかという気がするからだ。亡くなった後に腑に落ちるというのも変な話だが、そういうことは案外、がむしゃらに活動しているときは分からないものだ。

もし私が旅で死んでも、私の人生を知っている人は労福会に何人もいる。だから、もう死んでもいいのではないか。砂漠に名もない墓標が立つのなら、旅で死ぬのもいいだろう。旅立ちを前に、そんなことを考えている。

私と労福会

布川敦士

札幌を離れてから早2年が経過しました。

こちらでも、野宿者支援団体の夜回りに時々に参加しています。参加者、当事者、活動場所が違えば同じ「ホームレス」を対象とした活動でも見える景色は当然変わりますが、その違いも含め面白く思えるようになってきました。

ろうふく参加時には自分の専攻と関連付けて「公共インフラが整備された場で生じた諸課題を通して、公共事業やその制度設計を考える」なんてことを頭に置いていましたが、この点は今でも仕事を通して、ゆるゆると考える機会を得られています。

なんだ、疲れた疲れたと思いながら結局この2年うまいことやれてるじゃないか。という雑な近況報告でした。

一点覚え書きを。離札幌した人が札幌に立ち寄ったり、離札幌した人同士が別の場所で会っている話を頻繁に聞きます。私もさみーさんと加藤くんしょっちゅう会ってる気がするし、上川くんはちょくちょく札幌に立ち寄ってるそう。直接会ってこそだし、この傾向が続くといいなあと思っています。

それでは、くたびれた時には札幌に立ち寄るので、なみすけで一緒にいただけると非常に嬉しいです。

わたしとろうふく会

柿崎 ひとみ

2020年はフィリピン、セブ島で迎えた。高齢化激しい日本では情報がなかなかアップデートされない。数十年前のイメージのフィリピンは貧富の格差が激しく、スラムでは子供たちがゴミを漁り…のままだが、実際世界各国は数年で激変している。セブはリゾートで有名だがセブ島セブ市はもはやそれだけではない。リゾート+ビジネスの街に進化している。近代的で新しい数々のショッピングモール、超高層ビル、世界各国のグルメ、おしゃれなカフェ。リモートワークの人々などが働く IT パークと呼ばれるビジネス街は東京やニューヨークのビジネス ディストリクトを彷彿とさせる洗練度。そのビジネスパーソンをターゲットにした近くのショッピングモールも同様におしゃれだ。過去スペイン、日本、アメリカに統治されていたので食文化も豊富。島国で海に囲まれているからもちろんシーフードも多い。日本食も何でもある。とりわけ豚骨ラーメン屋が多いのはフィリピン料理は豚肉が多いからだろう。

現在この国の観光の主翼は英語の語学留学である。性産業やカジノ目当ての客よりはるかに健全で且つ長期滞在してくれる上客。欧米豪の英語留学と比べると価格は安く、懇切丁寧。母子留学も流行っている。子供は英語のデイケア。保育所探しに奔走しなければならない日本と違ってデイケアの数は多い、値段は安く、英語も覚える。出生率が高く子供が多いので様々な遊び場など子供向けのサービスがどこにでもある。社会も人々も子供に対して優しい。ここでの子育ては楽だ。子供を預けてお母さんはリモートワークや英語のクラス、エステにマッサージ。人気が高いのは納得だ。一度長く滞在した人の多くはまたリピーターとしてやってくる。

街は日本よりも合理的な面も多々見受けられた。巨大ショッピングモールには役所の機能もあり、免許の更新、パスポートやビザの申請、健康保険など 様々な手続きがモール内で行える。巨大な駐車場もあり バスターミナルの機能も備えてあるからアクセスも容易。夜は利用者もいない区役所や駐車場をいちいち建設するよりずっと効率的。

インフラ整備などはまだまだこれからの部分もあるが、国民の平均年齢24歳、元気と生気にあふれている町、まだまだ発展するだろう。一か月超の滞在の後 60歳以上が半数を占めCovit-19の発生した日本に帰国した。

私と労福会

山内 太郎

自意識過剰という言葉にフリガナをあてるとすれば、ヤマウチタロウと書いても差し支えないだろう。労福会ができて今年度が20周年ということで、周年記念企画はコロナ騒動で中止にはなったけれど、私はいくつかのマスコミから取材を受けたりしていた。その時によくされた質問

が、なんで 20 年も続けてこれたのですかという内容だ。自分としては目の前に起きていることに場当たり的に取り組んできただけですか、毎週の夜回りを繰り返していたら 20 年経っていたという感じです、といった回答をするようにしている。そこには私の中で、そういう気負いのなさ、愚直っぽさが何となく世間ウケするのではないかという意識が働くのである。

しかし愚直さアピールも繰り返していると、徐々にメッキが剥がれていく。かくいう私も例外ではなく、いつの間にか自分を良く見せたいという自己顕示欲が顔を出してくるのだ。大したことなんてしてませんよとヘラヘラしているように見せて、しっかりと「自分は 20 年間やってきました風の雰囲気」を醸し出してしまっているのである。しかもこの場合、自分の都合のいいように 20 年間の歴史を捉えてしまうこともしばしばだ。労福会の代表がこんなことではあまりに危うい。こういう場合は史実を突き付けて自分自身にくぎを刺すことが肝要なので、ここでは懺悔も込めて史実を確認しておきたい。

まず、20 年前から活動しているという話についてだが、山内は 20 年間継続して活動をしてきたわけではない。2003 年から 4 年間帯広にいた時期があったし、そのあと札幌に戻ってきても労福会に参加していたわけではなかった（たまに顔を出していた気はするが）。毎週土曜日は家族と過ごしたり、友達と山に行ったり、酒飲んだりしていた（酒は今も同じ）のだ。2010 年の 3 月に元副代表の佐々木宏さんから電話があって、それがきっかけで「復帰」したのだから、実質僕が関わった期間というのは最初の 3 年と 2010 年からの 10 年、合計 13 年間だけだ。それなのに私は 20 年間地道に活動を続けてきましたみたいな顔をしてしまった時がありました。ごめんなさい。

それと労福会の設立過程について、山内が労福会をつくったみたいな誤解が生じているような気がするのだが、労福会を立ち上げたのは山内ではない。当時学部 1 年生だった南部くんというバカみたいに熱い人間がいて、労福会は彼の熱量でできたようなものだ。その時 4 年生だった山内は、労福会が設立された時（99 年 11 月～12 月くらい）はほとんどかかわっていなかった（自分の卒論でヒーヒー言っていた）のである。山内は設立時のドタバタが落ち着いた後に、ほとんど状況もわからないまま、（おそらく皆より年齢が上だという理由で）事務局長として据えられたというのが実際のところだ。でも私は、誤解している人に対して特に訂正しない（むしろ遠い目で当時は大変だったくらいの雰囲気出してた）でそのままにしてしまった時がありました。本当にごめんなさい。

20 年前の話ということになると、現メンバーで当時を知っている人は山内しかいないから、私がそうだったと言えどそのように理解されてしまいがちだ。40 代半ばになった今、私の自意識過剰はもはや治せるものではないことを自覚しつつ、歴史修正主義に陥らないよう戒めなければならない。

孤立はよくないという。報道や研究がそう言っている。孤立は QOL を低下させる。孤立と困窮には相関がある。孤立は寿命を縮める。文学的には、孤立は存在の否定だ。

孤立の対義語を辞書で引くと「連帯」「関係」と出てきた。いまいちピンとこない。

ホームレス状態が孤立の一つの究極形であるのは間違いない。中には豊かな友人ネットワークを持ちながら路上生活をしている人もいるが、そういう人はごく一握りだ。

さて私たちは、毎週土曜日の決まった時間に出発をする。大体いつも同じところにお馴染みの人がいたりする。先週も先々週も同じことを話したなあ、と頭の隅で思いながら雑談に興じる。たまに時事ネタが混ざる。どこか気まずく「体調はどうですか？」と聞いてみたりするが、概ねみんな「悪いけど大丈夫」と答える。再び雑談、ほどなくして次の場所へと立ち去る。これがひたすら毎週繰り返される。

そんな労福会について「支援をしていない」という声も上がる。ただ雑談しているだけじゃないか、こんな活動は無意味じゃないか、と。もちろん、しばしば活動によって新しい路上生活者が相談に繋がったり、何年も路上をしていた古株の人が病気を機に路上を脱するのを手伝ったりすることもある。そうした活動はまことに「有意義 useful」だ。だがそのような「有意義な支援」がなければ私たちの活動に意義がない、という主張には私は反抗したい。なぜなら、この社会はあまりにも意味を急かしすぎていて、それにより疲弊し自らを追い込む人々と、私たちは少なくない数出会ってきたからだ。「限りある時間を有効に使おう」「社会的意義のある仕事」「人生の意味に気づくセミナー」ああ、もうたくさん。反転しよう。「私は何て無駄な時間を過ごしてきたんだろう」「お前のやってる仕事って社会のためになってないよな」「自分が生きている意味がわからない」

『ロビンソン・クルーソー』の中にこんなシーンがある。ロビンソンは遭難により 28 年間、無人島で生活した。ある日、砂浜に見知らぬ足跡がある。彼はハッとすると。これはもしかして、この島に自分以外の誰かが存在するということだろうか？ いや、これは自分の足跡かもしれない。しかしそれを証明する術もない。明くる日、足跡は消えていた。もはやそんな足跡があったのか、それすら怪しくなってくる。

つまりこうだ。私たちは他者がいなければ、自らの記憶の正しさも、同一性の保証もされない。「孤」は自己の存在を奪う。では対義語は？

「日常的に語り得ること」これが一旦、私の思う答えだ。

そしてこれが労福会の担う最も根本的に meaningful で unuseful(anti-useful)な活動だと思う。

私たちは毎週土曜日の決まった時間に出発をする。先週、先々週とも同じ会話をする。たまに時事ネタが混じる。来週も来ると約束して、立ち去る。

私が初めて参加した夜回りでは、真鍋千賀子さん（ベトサダの創始者）がおられました。中塚忠康さん（当時なんもさサポートの責任者）が、かかってくる携帯電話に、次々に新しい指示を送っていたのを、思い出します。私に「北海道の労働と福祉を考える会」を紹介してくれた安東朋美司法書士（当時は、太田朋美さんでした）が、事務局長の篠原睦さんと、抱き合って再開を喜んでいた光景も、印象に残っています。その二人が相談して、現在の、北海道の労働と福祉を考える会と札幌司法書士会が協力して開催する「炊き出し相談会」が始まりました。もちろん、労福会は以前から、炊き出し相談会を開催していました。

当時事務局長は、来季の事務局長候補に自ら声を掛け、勧誘し、説得し、強くお願いし、何度も頼みながらようやく就任を承諾してもらい、年度内に北大生の間で後任を決めてバトンタッチするのが通例でした。一子相伝？ 禅譲？

そのころ事務局長はとてもしっかりしていて、夜回りの反省会の時間に遅れて、事務局長の長谷川喜哉さんから怒られたことも懐かしい記憶です。

初代の代表椎名先生が逝去されて、次の代表に当時北星学園大学の木下武徳准教授が就任されたこともあり、北星学園大学の学生さんが多く労福会に参加されるようになりました。事務局長北大、事務局次長北星の時代が数年続きました。

その末期、社会人の会員数が増し、考え方・感性の違いから、学生会員と社会人会員との関係がぎくしゃくした時代が数年ありました。社会人会員の批判から事務局長の成り手がなくなり、半年事務局長空位の期間が生じました。学生さんたちは様子見のような感じで、少し離れたところに身を置き、意見は言うが実際の活動はしない社会人会員は早々と会を去り、残された者はてんでこ舞いの半年でした。（この部分は、多分に私の主観が入っているので、意見がある方は、どんどん言ってください。）

このピンチを救ってくれたのが、高田晃太郎事務局長でした。南部葵さんも、学生さんに呼び掛けてくれました。秋の初めころ、高田君自ら申し出て、代表副代表が承認して就任が決まりました。高田事務局長は個性豊かで、多くの友人を労福会に連れてきてくれました。翌年度の事務局長も、文学部繋がりで。

空位時代を経た以後は、代表と副代表が、なんとか次の事務局長をお願いする役割を担うようになりました。代表が札幌学院大学の嶋田佳広先生に変わり、現在の山内先生になった後も、しばらく続けました。その間に、触れたくない悲しい出来事がありました。

我々労福会は、生活が困難な人たちの支援の場面で、時には自宅を訪れたりしていたことから（今では、あまり考えられないですね。）、Kさん事件が起きました。当時の事務局長（女性）の自宅に、手紙が届くようになってしまったのです。本来個人情報であるはずの住所、事務局長である彼女は、刑務所を訪問したときに台帳に書いた場面しか思い当たらないと言います。もうその時は、労福会を退いてられましたが、引っ越し費用を会で負担しました。その年を最後に、女性の事務局長は途絶えています。支援活動には、経験知識が必要ですし、思いがけないリスクの可能性があります。社会人の私から見て

も、リスクが伴う個人の支援活動を、学生さんがするのは酷だと感じます。

その K さんは、山内代表とフリー記者の小笠原さん、私も少し関わりましたが、不摂生のため亡くなりました。

2016年、そして昨年度の2019年も事務局長無しの年度になり、事務局長の仕事を代表である山内先生が担っています。長く会に在籍している私にとっても、この先例えば10年後労福会がどのようになるのか、とても興味があります。これに対しては、お前がそれまで生きているのかと、反論がありそうですね。なんとか頑張ります。

2020年度は、初めて北大生以外の事務局長が誕生しました。近藤紘世さんです。

そこで、私は今まで一緒に活動させていただいた事務局長さん初め、関わったすべての会員さんをお願いしたいのです。どこに居ようが、活動に関わらなくても構いませんし、気持ちだけでもよろしいのです。事務局長を支えてください。（文責：楠高志）

編：木村 将人